


 まえ だ けい す け
前田 圭佑
 知立営業所 乗務員 班長

2005年に入社した前田佳祐さんは、知立営業所の象徴（自称）、エースとして、日々、工場から工場へ300キロほどの道のりを走っています。夜勤務チームの班長としては、後輩の指導にも取り組む日々。入社以来、後ろ向きになることは一度もなかったという前田さんに、仕事に取り組む姿勢と今後の展望について伺いました。

— 仕事をするうえで自慢できるのは、どんなことですか。

とにかく毎日の仕事が好きということ。入社して今日まで一度も「仕事に行きたくない」と思う日はありませんでした。これが唯一、自慢できることでしょうか。

毎回、同じ荷主さんのところへ行き、パンを輸送しています。何年も変わらず同じルートをまわっている、徐々に顔見知りが増え、荷主さんや工場にいる人たちと話ができるようになりました。飲みに行った

り、泊まりで遊びに行ったりする仲に発展した方もいます。年齢も生活環境も違う人たちですが、そういう良い人間関係の中で仕事ができるのは楽しいことですし、働くモチベーションにも繋がっていますね。

— 仕事を楽しむために気を付けていることはありますか。

荷物を届けて終わりではなく、自分から積極的にコミュニケーションを取るようになっています。意識しているのは「テンションは高めに、元気良く」。私は日頃から楽しく生きていきたいと思っていますので、仕事も楽しみたいのです。そのためにも、自然と自分から働きかけて心地よい環境をつくっていったのだろうと思います。

入社したときは、まだ20歳でしたが、若くて元気だったからか、荷主さんから「飲みに行こう」と誘っていただきました。それ以来ずっと仲良くさせてもらっています。周りの

るくらい、仕事で認めてもらえるようになりたいですね。

自身の辛い交通事故の経験から、後輩や班のメンバーへ安全確認の徹底を促している前田さん。仲間たちに向けた深く温かい気持ちを胸に、これからも南星キャリアックスのために走り続けていくことでしょう。

— 事故を経験されてから、運転に対する意識は変わりましたか。

自分が本当に辛い思いをしたので、周りの人にはそんな思いをしてほしくないという気持ちが一層強くなりました。特に同じ営業所で働いている人には絶対に事故を起こしてほしくない。普段から、「すべてのことに関して確認し、さらに確認のための確認をして」と伝えています。自分たちで点検作業をすることはあまりないのですが、少しでも異常を感じたら報告すること。可能ならこちらは自分で確認し、必要があれば修理の手配をすることなど、細かい点も注意喚起しています。

— 後輩に指導する機会も多いと思いますが、その際に気をつけていることはありますか。

若い人やトラックを運転したことがない人も入社してくるので、どれだけ時間がかかっても、1人で作業

方々には本当によく可愛がってもらっています。

— いつも前向きにお仕事をされているとのことですが、これまで一度も挫折したご経験はないのでしょうか。

事故を起こして半年間ほど仕事を休んだときは、さすがに参りました。高速道路の料金所を過ぎたあたりで鉄柱にぶつかってしまい、そのまま意識を失って、気づいた場所が病院の手術室。脱臼骨折をしていて、椅子に座ったままの状態です。破ったので、大腿骨がお尻を突き破ってしまったのです。このときは、体も心も痛みました。

痛みは3〜4か月続き、ずっと足を引きずっていました。なのに、病院を抜け出して当時の彼女（妻には内緒の人）とお酒を飲みに行ってしまったことも。リハビリが辛かったので、気を紛らわすためでした。

— 最後に今後の目標、野望について教えてください。

将来の目標は、山田参与と森瀬部長を超えること。若いときから厳しく、ときにはより厳しく（笑）指導していただいた方たちです。そんな厳しさの中にも、温かさや優しさがあったのだということを、今の年齢になってやっと理解できるようになりました。

結婚して家庭を持ち、ようやく「最近落ち着いてきたな」と言ってもらえるようになったので、いずれは自分の頑張りで「ギャフン」と言わせ

